

Y09c 世界天文年 2009 における日本国内の活動報告

小野智子、大川拓也、小宮山浩子（国立天文台）、海部宣男（放送大学）、ほか世界天文年 2009 日本委員会一同

ガリレオ・ガリレイの天体望遠鏡による天体観測 400 年を記念する「世界天文年 2009」は、世界 148 の国と地域が参加、国連が定める国際年としては空前規模のイベントとなった。

日本でも、日本天文学会や、国立天文台、宇宙航空研究開発機構をはじめとする各関連学会や研究機関、教育普及関連団体により構成される「世界天文年 2009 日本委員会」（委員長：海部宣男）を 2007 年より組織し、この委員会が主導するイベントをはじめ、全国各地で天文・宇宙の魅力を伝える企画が、数多く展開された。その規模は、イベント数にして約 2900 件にのぼり、動員数は 600 万人を超えると見積もられる。とくに、特徴的なこととして、(1) 研究者、教育普及関係者による企画のみならず、天文愛好家や地域の有志による企画が目立ったこと、(2) 天文コミュニティによる企画にとどまらず、文芸や音楽、その他エンターテインメント分野との共同企画が実現したこと、などが挙げられる。

個々の企画については、すでに 2010 年春季年会において何件か報告がなされているが、今回は、世界天文年 2009 日本委員会事務局が集めた全国の様々なイベントの報告をもとに、具体的な数字を挙げながら、世界天文年 2009 における日本国内の活動を振り返る。